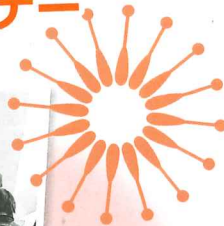


親から地域社会へのバトンタッチ
「松の木プロジェクト」啓発セミナー
 令和7年2月22日(日) 富山県民会館



手をつなぐ
 とやま

大雪の中満員御礼！
 親と支援者で、
 共通理解を図りました。



第189号

富山県手をつなぐ育成会
 富山市安住町5-21
 富山県総合福祉会館内
 TEL 076-441-7161
 FAX 076-441-7255
 mail toikusei@minos.ocn.ne.jp
 HP <http://toyamaikusei.jp/>

発行責任者
 平野 幹 夫

— 差別ない 心で広げる 豊かな社会 —

学齢期研修会 (1月)



子どものことだけではなく、
 私たち親自身の将来のことも考えてみよう！



本人活動 (3月)



10月の東海北陸大会 (本人大会)
 に向けて頑張っています！



みなさんの会報です
 よく読みましょう



今回のセミナーの目的は、「本人たちの身近な支援者、本人を一番よく知っている人たち」に「松の木プロジェクト」の共通理解をしていただき、「一緒に社会自立を目指して伴走しよう」というものでした。

そのため、相談支援事業所、地域包括支援センター、通所事業所などにご案内したところ、大変大きな反響があり、参加申込は130名で満員打ち止め。ちょうど、保護者と支援者が半々という、期待通りの参加者となりました。

シンポジウムでは、支援者側として、米原孝志氏（しらとり支援学校長）、小林真氏（富山大学附属特別支援学校長）、澤田昌子氏（富山高等支援学校長）、齊藤笑子氏（富山市基幹相談支援室統括）、尾野潤治氏（富山障害者就業・生活支援センター前セクター長）が、また、保護者の代表として筈田裕美氏（しらとり支援学校・保護者）が登壇され、細川氏のコーディネートにより、学校の特徴をはじめ、進路、卒業後の暮らし、様々な体験談や多様な相談事例が紹介されました。

最後に指定発言者として、相談支援専門員、民生児童委員、放課後等デイサービス管理者等の皆様からも、貴重なご意見とともに、「ともに寄り添い、支え合っていきましょう」というあたたかい励ましの言葉をいただき、盛況のうちに終了しました。

がっちりとした、たくさんの方の支柱（支援）で、主人公である「本人」を支えていく。それが「松の木プロジェクト」のイメージです。

今回のセミナーで、「松の木プロ

春が近づくと2月下旬としては、思いがけない大雪の中、県育成会の最重要課題である「松の木プロジェクト」の、令和6年度まとめのセミナーを富山市手をつなぐ育成会と共催で開催しました。

「松の木プロジェクト」啓発セミナー
親から地域社会へのパトントタッチ

障害のある本人の社会自立に向けて
「あなたも“支柱”になってください」

令和7年2月22日(土) 富山県民会館

— 子の生命 守る母の手 みんなの目 —

まずは、細川瑞子氏（県育成会権利擁護委員会委員長）より、「松の木プロジェクト」の7年間の活動報告があり、親だけの勉強会では、「本人の社会自立」を目ざす行動への第一歩を踏み出すことが難しい、という現実が見えてきたため、今回、共通理解を図るセミナーの趣旨を説明されました。

その中で、

- ・安心できる居場所作りや、信頼できる仲間の存在
- ・悩みを相談すること、相談相手がいること
- ・自分でできることを計画的に増やし、生活能力を高めること
- ・本人の情報や記録を残しておくこと
- ・早い段階から、将来を見据えた長期的な計画を、支援者と共に考えていくこと

など、「本人の社会自立をめざす」ために必要なことや、準備をしておくことなど、たくさんの方のヒントをいただきました。

「プロジェクト」の基礎固めが終わり、親と支援者との共通理解も始まりました。

昨年は、富山市をはじめ、砺波市、滑川市の育成会での学習会、また、富山市の精神障害者家族会や、障害者相談員研修会でも、「松の木プロジェクト」が取り上げられました。

今年度も、5月には、高岡市の民生委員児童委員様の大会で、「松の木プロジェクト」の紹介と対話を披露し、障害のある人と家族の悩みや困りごとを理解していただく機会をいただきました。

また、学齢期の保護者会様からも、「まっちゃん冊子」を活用しての研修会のご依頼もありました。

今後引き続き、「本人の社会自立」を旨とし、「親から地域社会へのバトンタッチ」を進めていくために、地域社会に向けた啓発や、多様な年代の仲間同士での勉強会を継続し、更に多く枝葉を茂らせ、伸びやかに育っていくよう、「松の木プロジェクト」の活動を広げていきます。

参加者「アンケート」から

(提出者56人。うち、保護者26人、支援者24人、不明6人)

1 今後の「松の木プロジェクト」の進め方について(自由記載)

「親たちの話合いと自覚」(19人)

- ・冊子持参で、事例集の身近なテーマや具体例で勉強会の継続を。
- ・少人数での情報交換を。参加者を増やす。
- ・8050前に気づく。学齢期、就労、通所と若い時から勉強会の継続を。

「活動の理解を拡げる」(10人)

- ・あらゆる機会、社会、学校、地域、企業、関係機関などへ多様な情報発信を。(SNS等)
- 「活動の継続」(9人)
- ・素晴らしい活動、取組みだ。
- ・県内各地でやってほしい。

2 知的障害者の社会自立や支援の課題(自由記載)

「理解不足」(10人)

- ・社会や地域住民の知的障害へ

の理解不足。活動にもっと参加を。

「出口(住まい)不足」(7人)

- ・親から自立した後の住まいが足りない。入所施設や重度者のグループホームが不足している。

「人材や社会資源不足」(3人)

- ・福祉人材の不足。利用できる社会資源を増やす。
- ・行政、支援団体、支援組織等の人材育成とネットワーク作り。

3 セミナーの印象、ご意見、ご感想(自由記載)

「保護者や様々な立場の方たちのお話が良かった」(6人)

- ・多面的に考える機会になった。
- ・貴重な話をたくさん聞いた。
- ・具体的な取組み等、学ぶことが多かった。

「全体像が見えた」(5人)

- ・素晴らしいセミナー。また参加したい。継続して欲しい。
- 「各支援学校の特色がわかった」(5人)

- ・しかし、学齢期の保護者の参加が少ないのが残念だった。

4 支援者の方のご意見「親たちにやってほしいこと」(自由記載)

- ・基本的な生活習慣を身に付けておいて欲しい。
- ・コミュニケーションの大事さを教えてほしい。
- ・就労でつまづくのは勿体ない。
- ・先のことを見据えて、将来計画を立ててほしい。
- ・親と一緒に考えていきたい。
- ・子も親も、是非いろんな人たちにならなくて、自立を。
- ・支援者同士も、連携を図りたい。
- ・子どもは、親の所有物ではない。一人の個人として尊重を。
- ・地域の人たちや多世代との交流。少しずつ理解者を増やす。
- ・社会の迷惑についての理解を、子自身に経験させることが必要。
- ・グループホームや施設での暮らしをイメージし、早いうちから短期入所利用を。
- ・多種多様なサービスの組み立て親が元氣なうちに、支援者へバトンを渡す準備を。
- ・このようなセミナー等に参加して、実情把握することが重要。

学齡期研修会（松の木プロジェクト）

「親である私たち自身の

「自分年表」を想像してみよう！」

講師 辻 千穂 氏

（針原地域包括支援センター 主任介護支援専門員）



令和7年1月18日(土)、学齡期の保護者様を対象に、「松の木プロジェクト」の一環として学習会を企画しました。
子どもの将来を考えることはもちろんですが、親である私たち自身のことも考えてみようという切り口で、これまであまり馴染みのなかった、しかし、これから必要になるかもしれない「介護保険」を中心に、学び合う機会を持たせていただきました。

講師の辻さんは、介護支援専門員として、要介護・要支援状態の人やその家族からの相談を受け、適切な介護サービスを利用するためのケアプラン作成や、関係機関との連絡調整などといった役割を担われています。
最初に、介護保険制度の仕組みと、地域包括支援センターの役割をご説明いただきました。
日々、相談に対応する中で、関わりに入り口が「高齢者」であっても、ふたを開けてみると、ご自身に障害があ

る、ご家族に障害があるといった例もあり、結果的に家族全体を支援していくケースも多々あると、いくつか事例をご紹介いただきました。

その多くは、私たちが抱える「8050問題」そのもので、大変身につまされる思いでした。

また、障害のある人自身が65歳になり、介護サービスの利用を始めたことがきっかけで、ケアマネジャーや民生委員など、複数の支援者が関わり見守っていく支援の輪につながったというケースもありました。

このような事例では、障害のある人のこれまでの生活歴が掴めず、苦勞することも多いので、本人の情報や、これまで支えてこられた人たちとのつながりが大切だとお話しされました。

また、参加者のお二人から、ご家族の身に起きたことから生じた、暮らしの変化などを体験談としてご紹介していただきました。

自分自身や家族に、いつ何が起こるかわかりません。親の介護や自分の健康、子どものライフステージの変化など、「自分年表」を想像しながら、いっどんなサービスが必要か、使えるのか

と思い描くこと、知っておくことが安心につながります。

辻さんからは、公的な制度や地域の資源は地域の温度差もあるので、現在の暮らしの場で、今、何があって何が足りないのか、年齢や障害の有無を問わず、周囲の方々と共に「あつたらいいな」を想像してください、と貴重なアドバイスをいただきました。

参加者からは、なかなか触れる機会のない高齢福祉の話を伺い、自分の将来を考えるきっかけになった、今後、親や自分自身に必要なかもしれない情報を得ることができた、地域包括支援センターの仕組みや活動を具体的に知ることができた、大変有意義であったと感想をいただきました。

地域や周囲の人と相互理解を深めること。親なき後や、いざという時のために、子どもや親自身の記録や思いを記しておくこと。

仲間や様々な機関とつながり、相談する場所をつくっておくこと。

将来に向けた準備、記録、連携などの大切さを改めて実感し、今後の活動に活かしていきたいと思われました。

本人活動部会
「明るい立山の会」

3月2日(日)、本人活動部会を富山県民会館で行いました。今回のメインは、毎年白熱する「役員選挙」です。

会長には5人が立候補し、それぞれが熱い演説をした結果、富山市の大井さんが初めて選出されました。

10月には富山県で東海北陸大会を開催しますので、会長としての出番も多そうです。

みんなからは、「がんばれよー、なんでも手伝うよー」と、力強い応援がありました。

副会長には、富山市の中村さん、谷井さんが選出されました。中村さんは初選出、挨拶もドキドキでしたが、みんなの笑いを誘っていました。谷井さんは、何度も役員を務めるベテランです。

書記には射水市の東條さん、富山市の坊坂さん。

会計は、富山市の中三川さん、射水市の林さんが選ばれました。

役員となった7人はそれぞれ、熱く意気込みを語り、大変盛り上がりました。みなさん、1年間、頑張ってください！

続いて、新メンバーや、コロナ禍を経て復活したメンバーも増えたことから、自己紹介も兼ねて、改めて自分のことを知ってもらおう！というところで、今年度の自分の目標と仕事や暮らし、プライベートなどについて発表することにしました。



みなさん、仕事や本人活動を頑張りたいと意欲的です。

- 小桜「なんでもポジティブにとりくみたい」
- 中村(恭)「本人活動で、友達をつくりたい」
- 大井「貯金をしたい」
- 三井「本人活動にやりがいを感じている」
- 黒田「土日仕事があるので、参加できないこともあり残念」
- 串岡「スーパードでの仕事を頑張っている。趣味の写真が上手くなりた」
- 寺島「グループホームを利用中。自分なるべく料理をしたい」
- 坊坂「小旅行を楽しんでいるので、電賃の割引がもっと多くなるといいと思う」
- 谷井「今年はブロック大会があるので、役員になってがんばりたい」
- 中三川「仕事を一生懸命頑張りたい」
- 藤野「2年前から新しい職場で頑張っている」
- 広川「職場のお世話になった先輩が退職して寂しい。仕事を頑張りたい」
- 中村(章)「仕事を頑張りたい」

○林「花が好き。本人部会を頑張りたい」

- 東條「自分で、薬や金銭管理を頑張りたい」
- 浅岡「新しい仕事にまだ慣れていないけれど頑張りたい。職員さんに、お願いしますと言われる嬉しかった」
- 前田「仕事を間違わないように頑張りたい。東北に旅行に行きたい、民謡も上手になりたい」
- 中木「ブロック大会の本人大会を頑張る。能登半島地震で自宅が被災した。復興を頑張る」

「明るい立山の会」に参加しませんか

- ・富山県育成会の会員で19歳以上の人
- ・2か月に1度、富山市内で開催
- ・話し合いの活動が中心です

<富山県育成会・事務局まで
お問い合わせください>

XXXXXXXXXXXX

令和7年度 富山県予算に対する要望回答

XXXXXXXXXXXX

毎年、県当局及び県議会自民党県連政務調査会に対して、「県予算要望書」を提出し、意見を述べる機会をいただいております。今回、県議会自民党県連政務調査会からいただいた「令和7年度予算要望」に対する回答の中からいくつかご報告します。

全体回答については、令和7年度育成会総会冊子に掲載していただきます。

特に、要望1.(1)については、能登半島地震を振り返り、いつ、どのような環境にあっても、誰もが地域で安心して暮らせるよう、継続して要望している。

要望1.(2)についても、災害時等に障害者世帯が孤立しないよう、日頃からのアウトリーチによる実態把握が必要であり、引き続き強く要請していききたい。

1. 【新】防災対策の推進（市町村への働きかけなど）

(1) 災害時において感染予防をはじめ、乳幼児、高齢者、障害者等に提供できる合理的配慮の洗い出しを行い、車中泊の解消などを含めて、災害時支援の具体化を推進してください。

市町村の個別避難計画の策定を進めるため、県では、市町村担当者を対象とした研修会等を開催するほか、福祉避難所の確保を図り、要配慮

者の直接避難の受け入れを促進するため、全国の好事例を情報共有するなど、積極的に市町村の支援に取り組んできている。

障害のある方が一時的に一般避難所へ円滑に避難できるよう、県の「避難所運営マニュアル策定指針」に基づき、「市町村は、一般の指定避難所内において、必要な場合に要配慮者等が福祉避難スペース（室）や個室を利用できるようあらかじめ考慮する」旨を市町村へお示ししている。

また、避難所における感染症対策においても、必要な資機材の確保、避難者の健康状態の確認など、市町村に要請してきている。

県としては、市町村の個別避難計画の策定が進み、事前に福祉避難所ごとに受け入れ者の調整等が図られるよう、また、施設側の直接避難の受入れ体制が整備・充実されるよう、引き続き市町村と連携を図りながら、障害のある方々が福祉避難所や福祉スペース等が確保された一般避難所へ円滑に安心して避難できるよう努めてまいりたい。（厚生企画課）

(2) 改正社会福祉法ではアウトリーチ等を通じた継続的な支援の必要性が明示され、支援の届いていない人に支援を届けることが求められている。災害時において障害者世帯が孤立しないよう、その糸口につながる「知的障害者実態調査（訪問調査）」を継続的に実施してください。

令和6年能登半島地震のような大規模災害が発生した場合には、通所系や訪問系の障害福祉サービス事業所が開所できないことが想定され、その場合には障害のある方の自宅にいる時間が増えるなど、本人や家族が疲弊状態になることも十分に考えられることから、自ら相談機関に向くことの難しい方など、支援の届いていない人に支援を届けることは重要と考えており、ご要望の「知的障害者実態調査（訪問調査）」など、支援の届いていない人に支援を届けるためにどういった方策が効果的か検討してまいりたい。（障害福祉課）

2. 市町村における包括的な支援体制整備への支援

(1) 「我が事・丸ごと」の地域共生社会づくりを進めるため、地域での生活のしづらさや複合的な生活課題を抱える家族の相談を包括的に受け止めるため、市町村における包括的な相談支援体制(いわゆる「断らない相談」)の整備に努め、好事例を市町村に広報・啓発してください。

県としては、重層的支援体制整備事業に取り組む市町村を支援するため、令和3年度から県による後方支援事業として、市町村や社会福祉協議会の職員を対象とした「重層的支援体制整備事業移行支援研修会」を実施しており、有識者からの講演や他県の先進市職員による事例紹介などを行っているほか、令和6年度からは、市町村役場を訪問し、厚生労働省職員を講師として地域共生社会について理解を深める講演会を行っている。今後とも国の動向を把握しながら、市町村における包括的支援体制の整備について支援していきたい。

(厚生企画課)

3. 就労への支援

(1) 様々な特性を持った知的障害者に対して、就労に関する悩みや困った時の相談窓口をわかりやすく広報・啓発するとともに、事業者に対して、雇用現場における相談窓口の設置や合理的配慮の提供について周知徹底してください。

県では、障害者の就労を支援するため、
① 企業の労務雇用担当に対する民間コーディネーターの派遣による

障害者の採用準備から職場定着までの一貫した個別支援

② 障害者の一般就労につなげるため、障害者やその家族・支援者と企業の労務担当者との就労相談などを行う交流会の開催

③ 障害者雇用の優良企業への訪問見学、障害者雇用制度・雇用実務に係る講座や雇用ゼロの企業を対象とした初めて障害者を雇用するための取組方法をわかりやすく説明するセミナーの開催

④ 障害者就業・生活支援センターを通じた、企業における職場実習やヤングジョブとやまによる障害のある学生のインターンシップや職場実習の実施により就職を支援するとともに、新規採用された障害者や採用企業の担当者を訪問し相談対応するなど就職後の定着支援を行うことで、就職から職場定着まで切れ目のない支援の実施

⑤ 一定数を超えて知的・精神障害者を雇用する企業に対する「知的・精神障害者雇用奨励金」の支給(超過1人につき月額8,000円、上限38.4万円/年)

⑥ 労働局との共催による障害者合同就職面接会の開催(毎年9月)

⑦ 優秀勤労障害者、障害者雇用優良事業所の知事表彰など様々な取組みを行っている。

今後とも、富山労働局など関係機関と緊密に連携しながら、障害のある方の雇用や職場定着を促進してまいります。

(多様な人材活躍推進室)



ご寄付をいただきました
ありがとうございます

- 旧大沢野町育成会 様
- 富山パイロットクラブ 様
- 森下 吉光 様
- 川村 雅也 様

富山県育成会の会員に
なりませんか!

知的障害のある本人たちの権利擁護を推し、誰もが安心して暮らせる共生社会づくりを進めましょう。

正会員

障害のある人の保護者や家族

年会費

5千円(1世帯)

市町村支部や施設保護者会でさまざまな活動を行っていますので、市町村支部等にもご入会をお願いします。

賛助会員

育成会の活動を理解、応援して下さる方を募っております。

年会費

特別賛助会員 1口 3千円

賛助会員

1口 1千円

ご入会いただいた方につきましては、令和8年5月発行の会報にご芳名を記載させていただきます。(匿名でも結構です。)

— 子の生命 守る母の手 みんなの目 —

◆ 大会のご案内 ◆

■ 第57回手をつなぐ育成会

東海北陸大会 (富山大会)

日時 令和7年10月5日(日)

10時~15時30分

会場 新川文化ホール(魚津市)

富山県では8年ぶりの開催です!

ご参加、ご協力の程よろしくお願
いいたします。

■ 第10回全国手をつなぐ育成会大会

(東京・記念大会)

日時 令和7年11月8日(土)・9日(日)

会場 東京都大田区蒲田

(日本工学院専門学校、他)

(富山県育成会のツアーは1泊2日
となります)

■ 障害フォーラムinとやま

日時 令和7年9月7日(日)

13時~16時30分

会場 富山県民会館

テーマ 障害者権利条約と就労

(基調講演とシンポジウム)

講師 炭谷 茂 氏

育成会の動き

期日	内容	期日	内容
【報告】		5/13(火)	富山障害フォーラム会議(聴覚センター)
3/2(日)	本人部会(県民会館)	5/18(日)	本人部会(県民会館)
3/10(月)	東海北陸手をつなぐ育成会協議会理事会(オンライン)	5/22(木)	東海北陸手をつなぐ育成会協議会 理事会(県民会館)
3/12(水)	里親審査部会(県民会館)	5/25(日)	県障害者スポーツ大会(県総合運動公園陸上競技場)
3/13(木)	全国育成会連合会 代表者・事務局長合同会議(オンライン)	5/26(月)	県議会自民党政調会(県議会)
3/18(火)	サポート協会理事会(教育文化会館)	5/28(水)	サポート協会理事会(教育文化会館)
〃	育成会理事会(教育文化会館)	6/3(火)	富山障害フォーラム会議(聴覚センター)
3/25(火)	富山県社会福祉審議会 児童福祉専門分科会(県民会館)	6/5(木)	全国サポート協会 総会(東京)
〃	富山障害フォーラム会議(聴覚センター)	〃	富山県障害者社会参加推進協議会 役員会(県民会館)
3/28(金)	県社協 評議員会(県民会館)	6/10(火)	全国障害者スポーツ大会 選手選考委員会(県民会館)
4/15(火)	運営委員会(教育文化会館)	【予定】	
〃	育成会・サポート協会 会計監査(サンシップ)	6/30(月)	全国育成会連合会定時総会(東京)
4/20(日)	セーナー苑総会(セーナー苑)	7/10(木)	障害者相談員(3障害)活動強化研修会(ゆーとりあ越中)
4/29(祝・火)	総会【理事・監事・支部代表者会議】(県民会館)	7/12(土)	学齢期「障害基礎年金」学習会(サンシップ)
5/9(金)	県障害者スポーツ協会 理事会(県民会館)		